

第18回 2005. 9. 25 (日) 晴れ 最高 27.8°C 最低 21.4°C 参加者：10人

・テーマ：**バッタの運動会をしよう** 場所：名大農場 最大風速10m

関東沖を行く台風17号の影響で、丘の上にある名大農場では強い西風が吹いていました。

3連休最後の日で、参加者は少なかったですが、虫取り網を手に、放牧地でバッタを追いかけました。農場に来合わせた学生も、我々も、バッタの忍者のような体色や振る舞いに翻弄されました。バッタを追いかけ、捕まえる楽しいひとときでした。

さて、集まったバッタの面々は、クルマバッタモドキ雌雄、ショウリョウバッタ雌雄、ツチイナゴ雌、トノサマバッタ雌雄、ヒナバッタ、コバネイナゴです。その他はウラギンシジミ、ヤマトシジミ、ウスイロササキリ、アオメアブです。

結果は、トノサマバッタが見事な羽ばたきで風に乗り1位を獲得。倉庫をこえてしまったので測定不能でしたが30～40mは行ったでしょう。Hさんがシュロの葉で作ったバッタを賞品として贈呈。

名大農場には、案内板、50mの巻き尺、牧草地を提供していただき感謝いたします。



第19回 2005. 12. 25 (日) 晴れ 最高 6.4°C 最低 -1.3°C 参加者：5人

・テーマ：**境川にはどんな鳥が来ているかな** 場所：境川周辺

24日は冷たい風が吹いていましたが、25日は穏やかな日になりました。今年は、冬鳥の数が少ないようです。植物の実なりがいいせいでしょうか。

この冬、境川では、コサギやダイサギの群やカルガモのファミリーの10羽ほどがよく見られます。風も弱く、期待して出発したのですが、鳥の声があまりしません。少し期待を裏切られてがっかりしました。初めての参加者の方もいたので、カワセミを見ようと三好側に渡りましたが、カワセミについては空振りに終わりました。でも、アオジ、コチドリ、キセキレイ、バンがじっくり観察でき、最後にコチドリを撮った写真にクイナが映っていました。最後に、なんとオオタカが堤防の外側から飛び立ち、腹面の白地にしま模様がぱっちり観察できました。オオタカは何かに驚いて飛び出たのでしょうか。あっという間の出来事でした。カモやコサギが全く見られなかつたのは、オオタカの存在感のせいだったのでしょうか。



観察会終了後、堤防に彼岸花の球根を植え、ゴミ拾いをしました。弁当箱やペットボトル、雑誌などがありました。また、一昨年植樹したハナノキの枝が折られ、大きな雪玉のところに転がっていました。折られた枝には真っ赤な冬芽がついていました。心ないことをする人がいるのを残念に思いました。

鳥 ヒヨドリ、モズ、ムクドリ、スズメ、キジバト、アオジ、セグロセキレイ、ハクセキレイ、クイナ、キセキレイ、コチドリ、ダイサギ、カワウ、アオサギ、バン、オオタカ (16種)

第20回 2006. 3. 26(土) 晴れ 最高 16.8°C 最低 7.0°C 参加者：12人

・テーマ：**春の七草を見分けよう** 場所：境川周辺

東郷町グリーンベルトを考える会で行う観察会も今回で丸3年、20回目を迎えました。

今まで年6回の自然観察会でしたが、今年度からは第4土曜日9時30分より毎月行います。休日の朝の散歩にちょっと出かけてみませんか。日頃気づかなかった新しい発見できると思います。（集合場所がいつも同じではないので、お確かめください）

今回の観察会は春の七草です。「セリ、ナズナ、オギョウ（ハハコグサ）、ハコベラ（ハコベ）、ホトケノザ（コオニタビラコ）、スズナ（カブ）、スズシロ（ダイコン）、これぞななくさ。

境川、前川の周辺で七草のうち5種類の草を探すことができました。探せなかった、スズナ、スズシロは午後にスーパーにでも探しに行こうと思います。

前川沿いの田んぼのあぜ道にケリがいました。ちょっと目つきの悪い、チドリ科の鳥です。今の時期、前川の付近を歩いていると、ケリ ケリ と警戒音が聞こえます。

植物 (草) セリ、ナズナ、オギョウ（ハハコグサ）、ハコベ、ホトケノザ（コオニタビラコ）、ニホンタンポポ、フキ、オオイヌノフグリ、タチイヌノフグリ、ヒメオドリコソウ、スミレ、カラスノエンドウ、タネツケバナ、セイヨウカラシナ、オランダミミナグサ、スイバ、スズメノヤリ、スズメノカタビラ、ヨモギ、セイタカアワダチソウ、ノビル、ヤエムグラ、ツクシ

(木) ジャヤナギ、シキザクラ

クモ 昆虫 キチョウ、モンキチョウ、ツチイナゴ、ナナホシテントウ、ウズキコモリグモ

鳥 その他 カルガモ、ケリ、ムクドリ、ウグイス、ホオジロ、スズメ、ヒバリ、カワウ



.....

第21回 2006. 4. 22(土) 晴れ 最高 18.9°C 最低 5.8°C 参加者：20人

・テーマ：**虫の季節の始まり** 場所：境川周辺

自然観察会のスタート地点である境川の堤防から、ニホンタンポポなど、春の花が一面に咲いているのが見られました。参加者の皆さんにタンポポの葉っぱを集めてもらい並べてみると、同



じタンポポでも葉っぱの形がギザギザだったり、杓文字型だったり色々な種類があることが解り、新しい発見がありました。境川沿いのジャヤナギに、越冬したヨコズナサシガメの幼虫がたくさんいました。このカメムシはもっと南で見られる種類ですが、徐々に分布を広げてきているようです。



黒いケバエと背中がオレンジ色のケバエがいて種類が違うかと思っていましたが、帰り道、交尾しているところが見られ、雄雌で体色や大きさが違うことが分かりました。名前はメスアカケバエといいます。色々な春の虫や花を見ることができた半日でした。



植物 (草) ニホンタンポポ、シロバナタンポポ、セイヨウタンポポ、ヒメオドリコソウ、オオイヌノフグリ、タチイヌノフグリ、カラスノエンドウ、カスマグサ、スズメノエンドウ、スイバ、ギシギシ、スズメノヤリ、イタドリ、オランダミミナグサ、ナズナ、セイヨウカラシナ、ヤエムグラ、キュリグサ、ノヂシャ、ヨモギ、ノビル、コメツブツメクサ、ドイツスズラン、ヨシ、ヘビイチゴ、オオジシバリ、イヌガラシ、スズメノテッポウ、レンゲ、アリアケスマリ、ケキツネノボタン、コオニタビラコ、ハハコグサ、アメリカフウロ、ハルノグシ、ハルジオン (木) ジャヤナギ、エノキ、クワ、ヒラドツツジ

クモ 昆虫 メスアカケバエ、アシナガヤセバエの仲間、ハムシの仲間 2 種、サシガメ、ヤマトゴキブリ、ウズキコモリグモ、モンシロチョウ、モンキチョウ、ツマグロキチョウ、ヒシバッタ、バッタ類の幼虫

鳥 その他 ツバメ、キジ、ヒバリ、セッカ、ホオジロ、ツグミ、スズメ、ケリ、カルガモ、コガモ、ハシボソガラス、キジバト、ヌマガエル、ダンゴムシ

http://www.yamato-gokubu.com/2006/05/27.html

第22回 2006. 5. 27(土) くもり 最高23.0°C 最低15.6°C 参加者 : 38人

・テーマ : **ヒメボタルの観察** 午後 7 時 30 分 風が強い 場所 : 前川周辺

・世界のホタル科の中での位置

ヒメボタル *Luciola Parvula* 甲虫類 ホタル科

世界中に約 2000 種いるというホタルのほとんどは陸生で、水生のものは世界でも 5 種類しか知られていません。日本では 46 種が確認されており、水生のホタルはゲンジボタル、ヘイケボタル、クメジマボタルとイリオモテボタルの 4 種類だけです。つまりゲンジボタルとヘイケボタルの様な水生のホタルは世界のホタルの中から見ると非常に特異な存在なのです。46 種の水生ホタルの内 4 種類も日本に生息し、それが、我が国の主流を占めているということからも、日本が清流に恵まれていることが分かります。

・ヒメボタルの特徴

ヒメボタルは、ゲンジボタルやヘイケボタルよりも一回り小さいことから「姫ボタル」と呼ば



れています。地域によってはヌカボタルとも呼ばれ、小さいながら黄金色の強い光の点滅が特徴



です。大きさは、ゲンジボタルの 15ミリ（オス）～18ミリ（メス）に比べ一回り小さく、7ミリ（メス）～9ミリ（オス）と小型で、色は黒色、前胸部は淡赤色、その中央には、黒褐色の半円形があります。



オス、メスとともに腹部後方に黄白色の発光器を持っています。オスは後翅が発達しており、生息地で飛んでいるのはオスばかりです。メスはふっくらとした腹部に無精卵を40～90個持っています。後翅は退化していて飛べません。そのため、生息地が限られているのです。オスも飛ぶ力は弱く行動半径はごく限られています。ですから、風の強い夜は草のかげでじっとしています。前川では、川面に近いところを飛んでいるところを見かけます。

<参加者の S さんからその後にいただいたメール>

前川のホタルは、6月3日 土曜日 午後8:30～9:30に観察しました。薄くもりで多分、ホタル観察には最高の夜だったのではないでしょうか。バク診療所すぐ横の車道に接したあたりが、一番とんでいました。そのあたりに5、6匹はふわふわしていて元気のいいホタルは車道を飛びながら横断してました。堤防の一番奥までゆっくりましたがはたして何匹くらいいたのかよく覚えていません。ただ、探そうとしなくとも10匹は楽に見た気がします。ふわふわ飛んでいるホタルが多かったです。姫蛍に関しては、去年までは相生山緑地で散々歩き回ってやっと一匹見た…という経験しかなかったので前川のホタルはとても素晴らしいかったです。

6月初旬に最高でも、20匹を数えるのがやっととは。今年は少ない年でした。

.....

第23回 2006.6.24(土) 晴れ 最高 30.9°C 最低 20.6°C 参加者：13人

・テーマ：初夏の林と虫 場所：名大農場

今回の自然観察会は名大農場のご厚意により、名大農場を借りて行いました。

初めの挨拶をしましたが、子供は農場のヤギたちのもとで、草をやることに忙しそうでした。

農場の草原にヘラオオバコの花がたくさん咲いていました。ヨーロッパ原産の植物で、輸入した牧草にタネが入っていたのでしょうか。

道ばたにヒメジョオンが咲いていて、ベニシジミがとまっていました。白い花が、ベニシジミのオレンジ色を引き立て、とても美しく映ります。

ギンヤンマを見上げていた方が彩雲を見つけました。ラッキーでした。運がよくないと見られません。

林の中の小道に入ると風が通って、とても涼しくここちよく感じました。こんな所で昼寝ができたら最高です。（^_ ^）

最後は、農場の黒毛和牛の糞をひっくり返して虫を探すつもりでしたが、200kgもの牛が驚いて走り出すのを見てやめました。私たちが柵に近づくと、牛が物珍しそうに集まってきた。

植物 キノコ ホソムギ、カモガヤ、ヘラオオバコ、ムラサキツメクサ、ヨウシュヤマゴボウ、ヘビイチゴ、ヒメジョオン、タチカタバミ、ヤナギハナガサ、キリ、アカメガシワ、ヒサカキ、ミモザ、ヤマハゼ、リョウブ、

カクレミノ, イヌザンショウ, サルノコシカケ sp, ヒイロタケ

昆虫 クモ ベニシジミ, アゲハチョウ, モンシロチョウ, キチョウ, モンキチョウオニヤンマ, ギンヤンマ, オオシオカラトンボ, コシアキトンボ, アキアカネ, ショウリヨウバッタ, ツチイナゴ, ササキリ sp, アシグロツユムシ, キンヒバリ (声) ナミテントウ, ナナホシテントウ, マメコガネ, ヘリカメムシ sp, ツヤマルシラホシカムシ, アオクサカムシ幼虫, モリチャバネゴキブリ, クサカゲロウ, オニグモ, ナガコガネグモ, カバキコマチグモ, ハナグモ, クサグモ, サツマノミダマシ sp

鳥 その他 ツバメ, ヒバリ, セッカ, キジ, カワラヒワ, ホオジロ, マイマイ sp, ダンゴムシ



http://www.japantravel.com/japan-travel/tokyo/2006/07/22/24th-annual-koganei-river-life-hunting-expedition

第24回 2006. 7. 22(土) 晴れ 最高 31.2°C 最低 21.5°C 参加者: 17人

・テーマ: 境川の生き物探し

場所: 境川周辺



「いつまで続くのか、この梅雨空は・・・」と、心配していましたが、運良くに雨がやみ、太陽も顔を見せ、川へ入るには絶好の日となりました。しかし、境川の水位は平常よりは高めで、川の中ほどはかなり流れがありました。

川へ入るにあたって、安全の確保について、川の流れや、深さを示しながら理解してもらってから、水に入りました。

正味 45 分間くらいの間に、いろいろな生き物が見つかりました。

メダカ, ブルーギル, ブラックバス, ギンブナ, ドジョウ, ヌマエビ, ザリガニ,
ガムシの仲間, カゲロウ・トビケラの仲間, ヒル, タニシの仲間

絶滅危惧種と言われているメダカが、ヨシの生えているよどみで見つかりました。他の生き物も、同じような岸辺に草が生えているところで多く捕まりました。



川は、流れが蛇行して、自然の岸が良いことがよく分かります。川は中央の流れが速くても、岸辺や、流れの内側では緩やかで、メダカやヌマエビが流されずにいる場所が確保されるのです。

最後に、川の流れが速い流れの中にも、石にへばりつくようにしてくらすトビケラやカゲロウ、ヒルを観察し、外来魚で在来の魚を駆逐するブルーギルとブラックバスは川などへ逃がさないで、と言う話をして終えました。子供には

川で生き物を探す楽しさを忘れないでほしいと思います。

川へはいる前に、出会った生き物

コイ、アカミミガメ、ゴマダラチョウ（数が増えています）、モンキチョウ、キチョウ、ゴマダラカミキリ、ツバメ、スズメ、カワラヒワ、ハシボソカラス

（以下略）

第25回 2006. 8. 26(土) 晴れ 最高 30.8°C 最低 26.1°C 参加者：7人

・テーマ：秋の鳴く虫音楽会 場所：境川周辺

今回の自然観察会は秋の鳴く虫音楽会、色々な虫の声が混じって聞き分けるのがかなり大変でしたが、リーン リーン というスズムシの音色や、ルルルル・・というカンタン音色など、耳をすませて聞いていると、段々声の違いが分かるようになってきました。

虫の声がしている方に懐中電灯を向けて鳴いている姿を探したのですが、すぐ近くで鳴いているはずなのに、なかなか見つかりませんでした。

聞き分けた声 エンマコオロギ、ハラオカメコオロギ、ツヅレサセコオロギ、セスジツユムシ、スズムシ、クサヒバリ、ハタケノウマオイ、カンタン、アオマツムシ、カネタタキ、マツムシ、ササキリ

その他 イトカメムシ、ホシハラビロヘリカメムシ、ヒメジュウジナガカメムシ、イラガ、アオバハゴロモ、ハラビロカマキリ、イエオニグモ、ジョロウグモ

植物 ガガイモ、ムクノキ、カラスウリ、ハス、ウバメガシ、アオツヅラフジ、



（以下略）

第26回 2006. 9. 23 (土) 晴れ 最高 27.8°C 最低 18.3°C 参加者：62人

・テーマ：バッタの運動会 場所：名大農場



台風の影響による天気を心配しましたが天気にも恵まれ、62人の大勢の方たちに集まつて頂きました。最初に受付を行い、バッタの捕まえ方や本日のスケジュールなどの簡単な説明をし、さあ！バッタ捕

りスタート！

良く飛ぶバッタはどのバッタかな？と追いかける子供たち。お父さん、お母さんの中には子供より熱心にバッタを追いかけている姿も見られます。



捕まえたバッタを飛ばしてその飛距離を競う「バッタの運動会」を行いました。出場したバッタは、クルマバッタモドキ、ショウリョウバッタ、ツチイナゴ、トノサマバッタなど。

結果は、倉庫の向こうまで飛んでいったトノサマバッタが6匹もいて、計測不可能！！ 40 m

～50mは飛んだと思います。

バッタの運動会の商品にと、Sさんがススキで作ったバッタを持ってくれました。バッタの運動会が終わってから、Sさんにススキのバッタの作り方を教わりました。



第27回 2006.10.28(土) 晴れ 最高 24.3°C 最低 12.6°C 参加者:8人

・テーマ:秋の生き物 場所:愛知池

今回の自然観察会は初めて愛知池で行いました。愛知池では高校生などがボートの練習をしています。

駐車場から愛知池に入る所にシンジュの木があり、みんなでタネを飛ばしてみました。ひらり、ひらりと、回転しながら鳥の羽の様に飛びます。この様にしてタネができるだけ遠くまで飛ばす様です。

堤防の草原を歩くと、クルマバッタモドキやマダラバッタなどがぴょ～ん。捕まえてみんなで観察しました

愛知池の周りにあるオギ原で、コバネイナゴの雌雄がいました。背中に乗っている小さい方が雄のバッタです。

散策道を歩いているとウラギンシジミがいましたが、残念ながら羽の表の模様は見られませんでした。

植物 シンジュ、コナラ、ソヨゴ、ネズ、リョウブ、アカマツ、ヒサカキ、イソノキ、シラカシ、アラカシ、ウバメガシ、イソノキ、シラカシ、チガヤ、ヘクソカズラ、アメリカセンダングサ、アキノノゲシ、ティカカズラ、ヤマノイモ、ススキ、オギ、ヨシ、セイタカアワダチソウ、ヒヨドリバナ

昆虫 クモ クルマバッタモドキ、マダラバッタ、コバネイナゴ、ウスイロササキリ、エンマコオロギ、ミツカドコオロギ、ハラオカメコオロギ、アキアカネ、キチョウ、ウラギンシジミ、ネコハグモ、ジョロウグモ

鳥 その他 モズ、カケス、メジロ、シジュウカラ、エナガ



第28回 2006.11.25(土) 晴れ 最高 14.4°C 最低 6.0°C 参加者:12人

・テーマ:ドングリを見分けよう 場所:愛知池

愛知池駐車場に集まり、ドングリの観察を中心に行いました。

風も弱く、穏やかな日で、ドングリを拾ったり、ガマズミの実やカキの味見をしたりして話が弾みました。



- ① コナラとウバメガシのぼうし（はかま・殼斗）は、つぶつぶです。アラカシとシラカシは、しましまで、アベマキは、もじやもじやしています。
- ② シイはぼうしではなく、すっぽりと包まれています。ドングリのてっぺんのところはめしへの柱頭に当たります。左の写真のように、柱頭のあったところから、根が出てきて、このまま、冬を越し、来年の春になると成長を始めます。

育て方：植木鉢に水はけのよい土を入れ、根を土の中に入れる。まだ発芽していないものは、半分くらい土に入れ、落ち葉をかぶせ、乾燥させないように世話をすると、芽が出てきます。虫に食われていると発芽しないことがあります。

ドングリの仲間 コナラ、スダジイ、アラカシ、シラカシ、ウバメガシ、アベマキ

植物 セイタカアワダチソウ、ノコンギク、オオジシバリ、ガマズミ、カキ、ススキ、オギ

昆虫 クモ トノサマバッタ、ササキリsp、ウラギンシジミ、キチョウ、コオロギsp、ジョロウグモ、アシナガグモsp、コクサグモ

鳥 カケス、メジロ、シジュウカラ、ヒヨドリ、ツグミ、スズメ、キジバト、ハシボソガラス、カイツブリ、カンムリカイツブリ、カルガモ、マガモ

2006.12.23(土) 境川自然観察会

第29回 2006.12.23(土) くもり 最高12.3℃ 最低3.2℃ 参加者:8人

・テーマ: **境川の冬鳥** 場所: 境川周辺

12月もあと少しで終わりだというのに、毎日暖かい日が続きます。

人間にとっては暖かくて過ごしやすい気もしますが、生き物達のことを考えると心配です。

今回の自然観察会は境川の冬鳥を・テーマに行いました。

毎年、この時期の境川はカルガモやコガモなどの多くのカモ類が見られるのですが、暖冬の影響か今回はカルガモとコガモが少し見られただけで、他のカモは見られませんでした。

しばらく歩いていると、鳥の巣を見つけることができました。空家であることを十分に確認し、巣の様子を手にとって観察しました。本当に上手にできています。

前川沿いのあぜ道を歩いていると、柿の木にムクドリが何羽か留まっていました、柿の赤色とムクドリのモノトーンのコントラストがとても美しく見えました。

観察できた鳥 (23種類) モズ、アオサギ、カワセミ、キセキレイ、カワラヒワ、カルガモ、キジバト、セグロセキレイ、ハクセキレイ、ホオジロ、アオジ、カワウ、シジュウカラ、ハシボソガラス、ドバト、キジバト、ムクドリ、スズメ、ハマシギ、ホオジロ、ダイサギ、コガモ



平成18年度 商工祭展示



第30回 2007.1.27(土) くもり 最高11.2°C 最低4.1°C 参加者:12人

・テーマ: 鳥のすむ環境

場所: 裕福寺グランド~境川

猿投山の上空には黒い雲が低くたれこめていました。時々薄日が差す中、富士浅間神社の東側の道から今池脇を通り、農地を横切って境川まで行きました。

茶苦煎池には水鳥は見られませんでしたが、南の林でキジバトやヒヨドリが羽を休めていました。浅間神社の脇で話をしていると、カワセミが東から林に向けて飛んでいきました。カワセミは赤土の崖に巣を構えますが、護岸のコンクリート化や丘陵の整地のため住宅難に陥っているようです。そのようなカワセミのため、営巣用のブロックを川の護岸に設置するところがあるそうです。自然の中で巣作りができればなあと思います。



田んぼの際にある小屋の釘にヌマガエルが刺していました。モズ



のはやにえです。モズは、捕まえた獲物を固定して食べるためには適当なものに突き刺して食べるのだそうです。でも、食べずに忘れてしまうことが多いようです。

境川沿いの鉄塔の上に止まっているショウゲンボウに会いました。動くけはいが全くなく、飛ぶ姿を見ることがませんでした。

常緑樹の林～ため池～農地と草地～芝生の川原へと、環境が変わるために見られる鳥も変わってきます。林や草地がもう少し広く、水辺の植生が豊かであれば、見られる鳥も増えるのではないかと思われました。

観察した鳥

- ・浅間神社～ため池：キジバト、カケス、ヒヨドリ、カワウ、ハシボソガラス、メジロ、カワラヒワ、シジュウカラ（声）、ジョウビタキ、カワセミ、スズメ、ドバト、ムクドリ
- ・ため池～農地～境川：ケリ、セグロセキレイ、ハクセキレイ、カルガモ、ツグミ、タヒバリ、ショウゲンボウ、コガモ、アオサギ、コサギ、メダイチドリ、ホオジロ、モズ（26種）



第31回 2007. 2. 24 (土) くもり 最高 10.3°C 最低 3.5°C 参加者：11人

- ・テーマ：愛知池の冬鳥を見よう

場所：愛知池

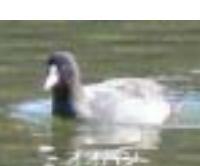


低気圧が去って、おきまりの北風が強く吹き、猿投山や南アルプスがきれでした。暖かい冬とはいえ、吹きさらしのところは、さすがに寒さが身にしみる日でした。

堰堤の斜面ではツグミが4羽。まるで背伸びをしているようです。上空でピーチク鳴いたのは、春を告げるヒバリでした。愛知池に目をやると、遠くにカンムリカツブリ、ミサゴが見え、カツブリが数羽、潜水を繰り返していました。カツブリはこの池で繁殖しているようです。

鳥のいるポイントごとに、鳥の鳴き声を頼りにじっと耳を澄ましたが、風のせいか、いつもより確認できる種類が少なかったようです。しかし、愛知池につきだしている展望台から、何かに（タカではないかな）驚いて旋回するオシドリが見られたり、見上げたソメイヨシノの枝先に雄のウソが2羽、蕾をぽりぽりやっているのが見られたりしました。ウソは、嘴で上手に芽鱗をそぎ落としていました。器用なものです。

最後は、オオバンです。この鳥は、愛知池ではふつうに見られますが、全国的に見ると局地的な種だそうです。



この日、観察したり、声を聞いたりした鳥は23種類でした。

鳥ツグミ、ヒバリ、ハクセキレイ、カンムリカツブリ、カツブリ、ヒヨドリ、メジロ、エナ

ガ, シジュウカラ, ヤマガラ, アオジ, ホオジロ, スズメ, ハシボソガラス, カワウ, アオサギ, ミサゴ, マガモ, オシドリの群れ, キジバト, ウソ, カルガモ, オオバン

http://www.japanbirding.com/japanbirding/2007/04/28/20070428.html

第32回 2007. 4. 28 (土) くもり 最高 23.0°C 最低 12.2°C 参加者 : 9人

・テーマ : 春爛漫 ~虫の季節の始まり~ 場所 : 境川周辺

お天気を少し心配しましたが、春のここちよい日差しと風にふれることができました。

田んぼの土手にマツバウンランが群生していました。一つ一つは小さな可憐な花ですが、これだけ集まると壮観な眺めです。



子供の頃ピーピーまめと呼んだカラスノエンドウがあり、同じ仲間のスズメノエンドウとカスマグサを探しました。カラスノエンドウによく似て、それよりずっと小さなもののがスズメノエンドウ。中くらいものは、「カラス」と「スズメ」の間の大きさなのでその頭文字を取って「カスマグサ」と呼ばれています。

タンポポなどの花や、ツマキチョウ, ナナホシテントウなどの昆虫たちの姿が見られ、散歩には

最適な半日でした。

植物 マツバウンラン, カタバミ, オオイヌノフグリ, タチイヌノフグリ, ニホンタンポポ, セイヨウタンポポ, スカシタゴボウ, スイバ, シロツメクサ, アカツメクサ, イタドリ, ヒメコバソウ, ニワゼキショウ, コメツブツメクサ, ムラサキサギゴケ, カラスノエンドウ, カスマグサ, スズメノエンドウ, ノヂシャ, ノビル, アメリカフウロ, セイヨウカラシナ, ギシギシ, カラスムギ, スズメノヤリ, ナズナ, ウシハコベ, キュウリグサ, ハナイバナ, ホトケノザ, ハルジオン, ヒメジョオン, ムラサキツメクサ, ネズミムギ, ヒメキンギョソウ, タマスダレ, ヒメオドリコソウ, コオニタビラコ, ハハコグサ, タネツケバナ, ジャヤナギ, エノキ, クワ

クモ昆虫 メスアカケバエ, ヒナバッタ, クロウリハムシ, イタドリハムシ, コガタルリハムシ, クワハムシ, セボシジョウカイ, ヤマトゴキブリ, モンキチョウ, キチョウ, モンシロチョウ, ツマキチョウ, ナナホシテントウ, ヒゲナガガ, アブラムシ(赤・黒), アメンボ, セグロアシナガバチ, ベニシジミ, ヤマトシジミ, ヤホシサヤヒメグモ

鳥, その他 セグロセキレイ, ツバメ, イワツバメの巣, キジ, ヒバリ, セッカ, オオヨシキリ, スズメ, ムクドリ, カルガモ, カワウ, ハシボソガラス, アマガエル, ミジンコ, コイ



http://www.japanbirding.com/japanbirding/2007/04/28/20070428.html